

学校法人相愛学園
理事長 相田芳久 殿

令和3年度

自己点検・評価 報告書

令和3年2月28日

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園
園長 佐野正子

理事長
決 済



令和3年度の園運営についての自己評価を実施しましたので、以下にまとめたものを報告書として提出いたします。

令和3年度は、4月よりスタートできたものの9月には緊急事態宣言発令のための休園措置。分散登園を経て9月末より再開となりました。コロナ禍の生活であることには変わりなく、感染対策に努めながら保育を進めてまいりました。

幼児の育ちと照らし合わせながら教育活動や環境構成の改善をしていく中で、幼児一人一人の育ちを丁寧にとらえ心身の成長を促していくことを主とし取り組んでまいりました。コロナ禍という厳しい状況下での園生活でも、幼児にとって意味のある生活ができるよう対応を工夫し取り組んできたことは、多くの収穫を得て無事終了できたのではないかと考えております。

具体的な教職員の自己評価においては、項目ごと各自で振り返りを行ったものをまとめました。自身の課題についてチャレンジできた部分、まだまだ努力や改善を要する部分が明確になり、次年度への目標が生まれたように感じます。今後もこれらの課題克服に向けて、ここが真摯に取り組むを進めることを求めてまいりたいと考えます。

本年はクラス内活動の細やかな部分に目や気持ちを行き届かせることを常に教職員に求めてまいりました。普段の様々な状況に的確に対応しながら子ども個々の心に沿うことを目標にした一年でした。(コロナ禍の感染対策で大人数の集まりや行事が制限されていたことも含め。)まだまだ十分とは言えないまでも、教職員がこの課題に向けて努力する姿を確認できたことは収穫であると考えます。保育の基本であるこの部分について、次年度もより一層よい目と心を養うことができるよう、努力していく所存です。

以下、園長による自己評価、教職員による自己評価等について、自己点検・評価結果の報告として報告します。

令和4年2月28日

| 評価分類 | | 内容 | チェック |
|---|--------------------------|---|------|
| I 教育内容 | 1 保育の計画 | ○建学の精神—に基づき教育理念や教育目標を明文化する | ○ |
| | | ○教育課程は教育理念に基づき、教育要領の精神を踏まえて編成する | ○ |
| | | ○社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮し必要に応じて教育課程の見直しを行う | ○ |
| | | ○幼児の生活が豊かになるように行事を精選し、幼児の発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行う | ○ |
| | 2 教職員体制の充実 | ○教職員が園の教育理念や教育方針を共通理解するための取り組みを行う | ○ |
| | | ○指導計画が教育要領、教育課程、幼児の実態に即したものになっているかを把握し、指導助言できる体制をつくる | ○ |
| | | ○教師が上級免許や他の資格を取得したり、教員免許の更新をしたりする機会を確保する | ○ |
| | 3 指導の在り方 | ○環境を通して行う幼稚園教育の特質を理解し、発達の道筋を見通して教育的価値のある環境を計画的に構成する | ○ |
| | | ○幼児の主体性と教師の意図とのバランスを考慮しながら、幼児が主体的に活動できる環境を構成する | ○ |
| | | ○幼児とのかかわりのなかで信頼関係を構築するよう努める。安全で心地よく過ごすことができる環境を整える | ○ |
| | | ○幼児一人ひとりの発達の特性に応じた指導を行う | ○ |
| | | ○教職員全員で一人ひとりの幼児を育てるという視点に立って、教職員間の共通理解と協力体制を築き、指導を行う | △ |
| | | ○遊びを通しての総合的な指導を行う | ○ |
| | | ○障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をする | ○ |
| | | ○子どもの発達と学びの連続性を確保するため、幼稚園と小学校との連携を図る | △ |
| | 4 研修や研究 | ○教育内容の質の向上や改善のため、園内研修を企画し行う | ○ |
| ○教師の資質向上のために、公的機関などが開催する研修会などに参加する機会を確保する | | ○ | |
| ○個々の教師が自分の課題を把握し、その課題が達成できるような指導体制をとる | | ○ | |
| II 地域の幼児教育センターとしての役割 | 1 子育ての支援 | ○子育ての支援のために、未就園児の親子登園や子育て相談、情報の提供などを実施する | △ |
| | | ○さまざまな教育に関する相談を受け入れる | ○ |
| | | ○子育ての支援に当たって、児童相談所や病院などの専門機関に相談や連携ができる体制を整える | ○ |
| | 2 預かり保育 | ○教育課程に基づく活動を考慮したうえで預かり保育の内容を検討し、計画的に行う | ○ |
| ○預かり保育を担当する教師の体制を整える | | ○ | |
| III 安全管理 | 1 外部侵入者・来訪者などに対する安全対策 | ○幼稚園施設整備指針に基づき、適切な防犯体制を整える | ○ |
| | | ○地震などの自然災害に対する防災対策を整える | ○ |

| | | | | |
|--------------------|------------------|---|---|---|
| | 2 | 施設・設備・園児 に対する安全対 策 | ○幼稚園設置基準を踏まえ、施設設備の安全管理に努める | ○ |
| | | | ○消防法を踏まえ、消防計画を作成し実施する | ○ |
| | | | ○防火管理者を定めて防火管理を行う | ○ |
| | | | ○設備や遊具の点検を定期的に行う | ○ |
| | 3 | 衛生管理 | ○幼稚園設置基準を踏まえ、衛生管理に努める | ○ |
| | | | ○学校保健法を踏まえ、保健安全計画を作成し実施する | ○ |
| | | | ○学校保健法を踏まえ、園児及び教職員の健康診断を実施する | ○ |
| | | | ○学校保健法を踏まえ、伝染病予防や発生に対応する | ○ |
| IV 人事管理 | 1 | 園の教育目標達 成のための人事 | ○幼稚園設置基準を踏まえ、園の教育目標が達成できる人事を行う | ○ |
| | | | ○幼稚園設置基準を踏まえ、個々の教職員が自己評価などに努める | ○ |
| | 2 | 教職員の雇用条 件 | ○労働基準法に基づいた労働条件を整備し、明示する | ○ |
| | | | ○私立学校教職員共済法を踏まえ、教職員の福利厚生に努める | ○ |
| 3 | 就業規則に基 づく労務管理 | ○労働基準法に基づいて就業規則を作成し、行政官庁に届け出る | ○ | |
| 4 | 教職員の健康管 理 | ○学校保健法に基づき、毎年、教職員の健康診断を実施する | ○ | |
| V 財務管理 | 1 | 予算作成及び予 算管理 | ○学校法人会計基準に基づき、予算書を作成する | ○ |
| | | | ○月次で予算管理を行い、補正予算が必要な場合は理事会の承認を得る | ○ |
| | 2 | 決算 | ○学校法人会計基準に基づき、会計処理を行うとともに財務計算に関する書類を作成する | ○ |
| | | | ○決算は公認会計士の監査を受け、適正であることの証明をつけて監督官庁に届け出る | ○ |
| 3 | 納付金算定 | ○園児納付金の算定に関しては、算定根拠をしっかりともち、外部に説明できるようにする | ○ | |
| 4 | 物品購入 | ○教材などの在庫は種類・量共に、適切に管理する | ○ | |
| VI 評価と情報 の公開 | 1 | 評価 | ○重点目標とそれを達成するために必要な評価項目を定めて自己評価を行う | ○ |
| | | | ○自己評価の結果や分析、それを踏まえた今後の改善方を自己評価の結果報告書にまとめる | ○ |
| | | | ○学校関係者評価委員会を設置し、自己評価の結果について学校関係者評価を行う | ○ |
| | 2 | 情報の公開 | ○幼稚園設置基準により、教育活動その他の学校運営の状況について、積極的に情報を提供する | ○ |
| | | | ○公開する情報の中で、個人情報とされるものについては保護されるようにする | ○ |
| | | | ○自己評価の結果を公表する | ○ |
| | | | ○学校関係者評価の結果を公表する | ○ |
| | | | ○幼稚園幼児指導要録の写しを小学校に送付し、情報の共有と相互理解を図る | ○ |

－令和3年度 教職員の自己評価内容について－

本年度も年度末に園内において教職員対象の自己評価を実施した。あらかじめ設定した評価項目にしたがっての振り返りを行なった。その中で、個々の課題の掘り起こしにつなげ、評価・改善策を考えることとした。今年度は4項目について自己の保育を振り返り記述したものをまとめた。以下の通りである。

1. 「自らの保育の計画・実践」についての考察
2. 「子どもの見取りと学級経営」についての考察
3. 「教職員間の連携」についての考察
4. 「保護者との連携」について（成果と課題）

以下、複数の教職員よりあげられた次年度への自己課題についてまとめてみた。

「自らの保育の計画・実践」について

- ・ねらいや目標に向けて保育を行っていく中で「これでいいのか」と自問自答することがあった。その都度相談したり確認していくようにした。子ども達のためにどう取り組んでいくのが良いのか、細かく計画を立て実践していきたいと思う。
- ・週案を立て実践していったが、もっと子ども達の心の動きを生かした保育を計画していく必要があると感じた。決められたことをやるだけでなくいろいろな子どもの姿を引き出せるようにするための声掛けの仕方や援助の仕方を実践していきながら学んでいきたい。
- ・なるべく早めに計画をしていくように考えていたが準備不足となってしまうこともあった。自分自身やってみたくには挑戦できたが、もう少し工夫すれば良かった点や時間的に余裕がなく中途半端になってしまうことがあったので改善していきたい。
- ・個人差が大きく課題も多く見られたので、子どもに姿に合わせて計画を進めていくようにした。できることを積み重ねていくことで自信へ繋げていけるよう配慮していったが、ここまでは育ててほしいという思いもあり、ハードルを上げてしまう場面もあった。何を大切にしていくのかをしっかりと考えながら保育を進めていきたい。
- ・子どもの姿から保育内容を考え遊びや活動に取り入れ援助していったことで成長が見られたり、自由遊びの中にその内容を取り入れ継続していく姿が見られた。しかし行事に関わる活動で忙しくなると中途半端になったり、終息してしまう取り組みや遊びが出てしまった。期間を考えそれぞれの活動・遊びを単発化せず並行していけるように考えていきたい。
- ・保育者が決めるばかりでなく子どもの声を取り入れていくことを大切にする事で子どもの気持ちも違っていったように感じる。今後も大切にしていきたい。
- ・子どもが「やりたい」という遊びの準備は比較的できたが、もっと発展できるよう工夫していったかは課題が残る。物の数が限られていたり、活動を用意しても保育者が常につくことができず中途半端な遊びもあった。(特に朝の遊び)

「子どもの見取りと学級経営について

- ・個々を認める声かけをたくさんするように心掛けたことで、自信をもって生活する姿が多く見られたことは良かったと思う。
- ・今年度はより一人一人の子どもの見取りが難しいと感じた。子ども達のことを理解するには表面上の関係ではなく深い信頼関係を子どもとの間に築いていかなければならないと感じ、またその難しさを痛感した。気持ちに寄り添い子どもの話を丁寧に聞く、決めつけたりせず見守ることを大切にしていきたい。クラスを運営していくことはやはり難しいことだと思うが、子ども達と行事等日々を過ごしていく中で子ども達と共に自分自身も成長していきたいと思う。

- ・「ここまで育てたい」という保育者の願いを持ちながらも高い目標を目指すというよりは、今の子どもの現状やその時の姿に合わせていきながら個々を引き出していけるよう過ごすことを心掛けてきた。
- ・個と全体とで一人ひとりを見ていき、その子に合わせた援助を心掛けていった。ここに大きな成長も見られていったが、適切でなかった対応もあったと思う面もある。一人一人の様子をしっかりと見取っていきながら援助を考えていきたい。
- ・一人一人を見ているつもりでもその子の言っていたことやちょっとした成長を見逃してしまわないよう、また慌ただしくならないよう保育を計画し気持ちのゆとりを持つことが大切だと感じる。
- ・自分自身も子ども達を取り巻く環境の一つと捉え意識することを心掛けた。子ども主体の保育、子どもの気持ちに寄り添った保育の中での言葉のかけ方、雰囲気作り方...等今後も勉強していくことが大切だと感じる。
- ・クラスの子どもの個人差が大きく、様々な面で援助を必要とすることが多かった。個で見れば日々の成長を感じるが、集団としてみると気になることも多く、個と集団での見方の難しさを感じた。

「教職員間の連携」について

- ・行事や係分担など早めにできること、気付いたことは行動していくようにしたが、直前になってドタバタしてしまうこともあった。
- ・経験を重ねわかることも少しずつ増えてきているが、自分がどこまでやれば良いのか後輩の先生への仕事のふりかたが難しいと感じた。
- ・研修など他学年と話し合いをする場の中で、意見交換ができたり共有し合えたりできたと思う。研修の場だけでなく普段からかかわっていけるよう努めたい。
- ・クラスの子どもの様子を他の先生に伝えていくことで気にかけてくださりより良い方向へと子どもが成長していくのだとわかった。
- ・年々子どもの個人差の開きを感じる。より一層教職員の連携が必要と感じる。
- ・いろいろな場面において常に疑問を持ったりして、保育やいろいろな活動の見直しに役立てていくよう心掛けたい。(コロナで例年通りできなくなっているものもあるので)
- ・お互い声を掛け合っていくことで意思疎通を図るようにしていった。忙しい中でもお互い歩み寄ることが大切だと思う。
- ・忙しくなる時期は同じなので、声を掛け合い気付けるような関係性を築くこと、気持ちに余裕を持つよう心掛け助け合えるようにしていきたい。

「保護者との連携」について

- ・お迎えの保護者の方とは日々の生活の様子について話すことができるが、バス通園の保護者の方とはゆっくり話す機会が少ないため、電話や会った時、また連絡帳等でできるだけ生活の様子などを話すよう心掛けた。
- ・自分の憶測や勝手な判断で他人に噂を広めたり、質問をしてくる方にどのように伝えていけば良いのか適切な対応が難しい。
- ・子ども達の成長した姿や頑張っている姿を保護者に伝えていくことで、保護者の方が園での様子を少しでも感じ取っていただけて、子どもとコミュニケーションをとる機会が増えたようなので良かった。
- ・気になる子については家庭での様子を聞きながら、園での課題を伝えていけるようにし、その後の様子も伝えるように心掛けた。
- ・保護者の表情を観察し、聞きたいことや不安に思うことをくみ取れるよう落ち着いた対応を意識した。
- ・電話等では伝わりにくいこともあると思うので、話す内容をしっかり整理してから伝える努力を今後していきたい。
- ・コロナ禍で保護者との関わりが減少しているので、こちらから積極的に関わることで少しは安心していただけるのかなと今年は特に感じたので意識していきたい。

全体的な分析

全体を通して、各自が自分の課題を捉えてその課題に向けて努力していることは感じとることができた。自分自身の視点でしっかりと振り返ることで見えてきた“成果と課題”を次に生かしていくための努力を惜しまず頑張ってもらいたい所である。

教職員の経験差が大きくなった体制での園運営が行われている現状が悩みの一つでもある。若手教員については一年一年と経験を積み重ねていく中で、保育に対する前向きな姿勢や保育技術、子ども理解等が身につけてきていることは頼もしい限りである。その若手教員とベテラン教員との間を中堅教員が繋いでいく体制が少し整いつつあるように感じる。お互い信頼し合うことを根底に、寄り添いながら引き続き努力していけるよう人的環境を整えていきたい。

また、級外教職員もそれぞれの経験を活かし良きサポーターとして、心強い存在となっている。

今年度スタートは切れたもののコロナ禍ということには変わりなく、まだまだ先の見えないう状況ではあるが、その都度保護者の皆様にご協力を仰ぎながら対応を考えていきたい。子どもの前に立つ教師としての姿、後輩の前に指導者として立つ姿、先輩の話を真摯に受け止め活かしていこうとする姿…等、それぞれ自分の立ち位置、立ち振る舞いを再度検証確認し、実行していくことこそ求められていると感じている。

”みんなの輪（和）の中で一人一人を育てる“という当園のスローガンがあるが、それは子どものみならず教職員についても言えることであり、このスローガンを心にとめ、次年度以降への継続の課題としていきたい。

【 園内施設（建物・構築物関係）の保全状況 】

1. 園庭緑化関係事業

➡園庭の芝関係の事業として、時期に合わせて肥料を散布、冬芝の種まきなどを実施した。また、スプリンクラーなどの修理も実施した。

2. Wi-Fi 工事終了

3. AED取り換え

※月1回職員による一覧表に沿って目視点検を行っている。不良部分があった場合は報告し、素早く対応できるようにしている。

【 園内遊具の保全状況について 】

1 ビッグツリー（にこにこの木） ➡ 3階踊場部分の木製枠のひび割れ
経過観察を行っていたが、部品取替え修理及び塗装を完了した。

2. 業者による遊具一斉点検（2/18） ➡ 結果報告待ち

※毎日の遊具消毒（屋外・屋内）は継続中。
通園バス内の抗菌防臭済の施工証明書



令和3年度 保護者アンケート実施結果についての考察

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園

保護者の皆様にご協力いただいたアンケートがまとまりましたのでご報告いたします。

《回収率》

| 満3・年少 | 年中 | 年長 |
|-------|-----|-----|
| 81% | 70% | 55% |

以下に、各設問について主な複数意見をまとめて報告します。

- ☆ Q1～Q12 質問については、ほとんどの方が『そう思う or 大体そう思う』の評価でした。但し、「教職員はお子様のことで保護者の皆様と連絡を取っていますか。」「幼稚園は園の情報を知りやすく伝えていると思いますか。」「幼稚園は子どもの安全に配慮していると思いますか。」「幼稚園と家庭との相互の連携がとれていると思いますか」等の項目では…
『あまりそう思わない』『そう思わない』というご意見もあり、園として取り組んでいかなければならない課題となりました。

☆ Q11・お子様の成長についての自由記述欄では…

- 満3歳 } ・満3・年少組共初めての集団生活ということもあり、基本的な生活習慣の確立、園生活を楽しくしている様子、友達との関わり、言葉の成長などが多くあげられた。自分のことは自分でやろうとする姿などから成長を感じているようだった。
年少組 }
年中組 ・友達関係の広がり、活動に期待し張り切って取り組む姿、苦手なことにも挑戦しようとする気持ちなど、園生活や意欲の面での成長が多くあげられていた。また、行動範囲や周りへの興味も広がっている様子も感じているようだ。
年長組 ・自分で考えて行動しようとする姿、自分なりの目的をもって頑張ろうとする姿勢、友達関係の深まりや協調性の育ち、優しさなど、人との関わりにおける成長が多くあげられた。また、相手の話をしっかりと聞く、自分の思いや状況を順序立てて相手に伝えるなど、言葉の成長も実感しているようだった。

※いずれの学年の成長も、その年代で私達が育ててほしいと思う姿と重なり嬉しく思います。保護者の皆様がお子様の充実した育ちの場面を数多く実感できるよう、保育内容の一層の向上に励んでまいります。

☆ Q12・Q14の問いの自由記述欄のでは…

本年も多くの建設的なご意見を頂戴しました。特にご意見の多かった点については下記に列記しました。早速来年度より改善に向けた対応を考えてまいりたいと思っております。

○手紙の配布回数・内容について

- ➡手紙が多い、内容が分かりにくい等が毎年の課題でした。今年度より写真入りクラスだよりをメールに添付し配信することにも取り組んでみましたが、「良かった」というご意見を多くいただきました。まだまだ簡素化できる面もあると思いますし、文章をわかりやすく簡潔にする工夫も必要です。お便りのデジタル化も始めたばかりなので続けていく予定です。クラスだよりは回数を増やしてほしいという意見もいただいておりますし、手紙の内容によっては紙媒体の方が良いものもあるのでは、というご意見もありましたので検討していきたいと思っております。

○現状は無理だとは思いますが給食がどんなものか知りたい。

➡以前は給食参観をやっていましたが現状は厳しいですね。写真でもよいので…というご意見もありましたので計画してみます。

○今年度取り組んだ、Z o o m ・ You Tube を利用した動画配信について

➡わんぱくホリデーの動画配信、休園期間中の先生方のZ o o mを使った配信、クラスの様子動画配信（ふれあいの日が実施できなかったの）等、好評でした。1家庭1名という参観が多かったので、みんなで見るができるという意味で良かったのだと思います。すべてということではできませんができることはチャレンジしていきたいですね。コロナが終息を迎えれば来園いただき、実際の子どもの姿をご覧いただくことが一番だとは思いますが、その日が来ることを切に願います。

○コロナ対策として日々どんな対策をしているのか。

➡**保育中** 手洗い・うがいの励行、手指消毒、ソーシャルディスタンスをとった並び方（トイレ等）、机と机の間隔をあける、大きな声を出して騒ぐような活動は避ける、給食中は黙食を心掛ける、給食を食べ終わったらマスクをする、マスクが汚れたら変える、定期的な換気、空気清浄機の利用…等
※今年度は給食前に検温をしています。（体調変化の把握）

放課後 保育室の清掃・消毒（机・椅子、おもちゃも含む）、屋外遊具の消毒…等

○行事の中止、延期について、また参観者の人数制限などについて

➡コロナ禍での行事の中止や延期、参観者人数や時間の制約…等、仕方がないことである。わかってはいるものの残念ではあるし少し寂しい。どんな形でも開催してくれたことで子どもの姿を目にすることができ良かった。というように概ねご理解をいただきました。

コロナウィルス収束（終息）については、次年度もどうなるのかまだまだ先が見えませんが、今年度の反省をもとに工夫しながら対応していきたいと考えています。

○その他のご意見として

*車の送迎可にする対策を取るべきではないか。

*駐車場の入口出口を守らない人が多く危険。再度案内を出した方がよい。ぶつかりそうになった。

（特に降園時間でなく放課後の車の出入りの時がルールを守らない車が多い。）

*駐車場の白線が消えているので書き直してほしい。

*学年日より（月予定が掲載される手紙）はもう少し早くほしい。

*アンケートも web のアンケート機能を使った方が提出しやすい。集計も早いのでは。今年度は回収率が少し上がっていますが、良い方向を見出していきたいと思います。

*がんばりハイクのおにぎりはラップに包んだり除菌シートを持たせた方がよいのでは。コロナのことがあるので心配になる。 …等

保育については、概ねご回答をいただいた皆様から一定のご評価を頂戴できました。園長を含め教職員への厳しいご意見もございました。ご意見を頂戴したことを真摯に受け止め頑張っていく所存でございます。改善点はまだまだありますので、現状に甘んずることなく、より一層子ども主体の保育を心掛けるとともに、年間行事・教育内容などの再度見直し、より快適な環境となるよう今後も鋭意努力を重ねてまいります。次年度に向けてよい反省材料をいただき、感謝申し上げます

コロナウィルスが収束（終息）に向かうことを願いながら、子ども達が主体的に活動できるよう、環境（人的・物的）を整え、成長を促せるような日々の積み重ねを大切に、教師一人一人が子どもに寄り添った保育ができるよう引き続き研鑽を積んでいきたいと考えております。

一年間のご理解とご支援、誠にありがとうございました。